

自動化、効率化を 提案、アピール



国際物流総合展2018 7万4000人超え来場



トヨタL&Fのブース

11日〜14日の4日間、口商品の取り扱いによりアジア最大級の物流・ロジスティクスに関する自動化、効率化への提案が自門展「国際物流総合展2」立った。

018」が東京ビッグサ O18」が東京ビッグサ そのひとつがAGV イトで開催された。今回(自動搬送台車)で、各は「ロジスティクスの今社がさまざまなアプロー を知り未来に触れる」をチを試みていた。日本電 テーマに、470社24 摩シンボは、2台の「N 35小間の出展規模で、EAT S-CART」 最新の物流搬送機器、ロの協調により、長尺物の システイクスシステムの自動搬送を実演。建材、 展示が行われ、7万45 などの運搬に利用でき 20人の来場者で賑わっ た。

タイへは、最大可搬 今展では現場で労働力 7000キのA1搬送口 不足が進む一方で、EC ボット「A1tra」 市場拡大に伴う多品種小 と同社の垂直多関節ロボ

行つた。

また、子会社化した海 外の技術と自社の技術を 融合させ、会場で新しい ある」とし、機体メーカ 後、日本のニーズにあっ た仕様に作りこみ市場展 開を図る」という。

一方、フォークリフト オークラ輸送機も、マ

ットの協働で工場内物流アームロボットとの協働 の自動化を提案。「万一、で 将来に向けたヒッキ トラブルがあっても1社 ンク自動化」を紹介し てサポートできるのが強 いた。

オムロンは、A1搭載 ビックングの完全自動化 を実現した伊東電機の クインシステムを再現 するシャトルシステム、 「9・11のテロ以降、 倉庫内を縦横無尽に移動 するシャトルシステム、 倉庫内を縦横無尽に移動 するシャトルシステム、



ダイワのブース



伊東電機のブース

米、英、ニュージーラ の展示のイメージが強い 同社の企業を買収し、空 港向けシステムのA T e は違った。昨年傘下とし 事業を第4の柱に据え た物流システムインテグ レーターの米企業とクロ ーバに物流ソリューション ンダ企業の製品をアス の一角に参考出品。自動 倉庫内を縦横無尽に移動 するシャトルシステム、

クローズアップ

クローズアップ

また、IoT活用の提 案も目立ち、ユーエイキ ャスターは新製品の「段 差乗り越えキャスター」 に加え「発電・センサキ ャスター」を参考出展し た。キャスターの回転で 発電し、走行距離などを 無線通信で発信するキャ スターで物流現場でのI OT活用による稼働状況 監視を提案。今展示会 はじめユーザーのニーズを 反映し商品化に向けて開 発を進める意向だ。他ブ ースでもセンサ内蔵型パ レットによる在庫管理の 提案なども見られた。

なお、次回の国際物流 総合展は2021年1月 26〜29日の4日間、東京 ビッグサイト西、南展示 場での開催を予定してい る。